

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート 28
文・出島二郎
マーケティングプランナー



市川 航暉 (いちかわ こうき)
金沢工業大学大学院工学研究科
システム設計工学専攻
博士前期課程一年
福井県立羽水高等学校出身

心理学を応用したものづくり 理系ならではの手応えを実感。

新型コロナウイルスで学内は学生が立入禁止のため、初めてのリモート取材となった。授業はすべてオンラインで、理科学科の学生は朝八時すぎにミーティングがあり、先生が持ち回りで工夫しているという。市川さん自身は週一回のオンラインゼミを中心に、指導教授の神宮英夫教授と頻繁にやりとりして研究の準備を進めている。

との共同研究に興味を持ち、研究室を選びました。」

神宮教授の専門は感性工学、応用実験心理学。同大の感動デザイン工学研究所長。市川さんの研究も、女子美術大学と民間企業との産学共同研究であり、昨年十二月の日本人間工学会関西支部大会において優秀発表賞を受賞した。

「卒業研究は『芸術祭の感動と記憶の関係』。昨年、国内三ヶ所の芸術祭で実験した二つをまとめ、感動の指数化の可能性を明らかにすることを目的としました。女子大生に簡易型の心電計をつけてもらって、ほくらはパソコンを持ってついで行くんですが、楽しかったですよ。今はもう一ヶ所の実験をどうまとめるか、さらにその先のアプローチを考えています。」
大学の選択は高校の担任に勧められたことが大きいですが、学科や研究室は、おもしろそう、続けられそう、が基準。課外活動も、たま

たま見学したWAVEプロジェクトに、こんなこともできるのかと。キャンパス内のコミュニティ放送局FM・N1で、週五日の二時間、番組の企画・制作・放送のすべてを金沢工大の学生が担当する。

「動物が好きだけど映像は使えないから、その進化は生きてく上で必要ある?という点に突っ込みを入れる番組を作ったり。人前でしゃべるのが苦にならなくなったし、生放送なので流れが変わっても時間内で対応できるようになった。それで、学会でも心地良い緊張感で発表できたと思います。」
心理学を活かした商品開発や、番組制作で得た経験をもとに就職を考えたいという市川さん。困難だが新しい時代を迎え、彼のような飄々と生きる柔らかな姿勢には、頼もしさすら感じるのだった。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七丁目
電話番号(076)248-1100